

音楽

第2学年

育成を目指す資質・能力

【主体性】【思考力・表現力】

題材名

記憶に残る全校合唱とは…

【題材の概要】

毎年全校合唱を聴いてくださっている方からのビデオレターや、35年前の世羅中学校の先輩たちの合唱レコードを聴くことをきっかけに、記憶に残る全校合唱とは、どんな合唱なのかを考えます。また、それをつくりだすために自分たちがどのように音楽に迫っていけばよいかを生徒自ら考え、協働して自分たちのめざす合唱をつくり上げていきます。

学習指導要領における領域・内容

A 表現（1）歌唱ア、ウ

他教科等との関連

特別活動、道徳の時間

◆題材の目標

歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌う力を身に付けるとともに、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら歌う力を身に付ける。

◆題材の展開（全7時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
	<p>（パートリーダー）</p> <p>○今年の全校合唱はどんな曲がいいかな。歌詞に共感できてみんなの心が一つになる曲がいいな。</p> <p>○みんなに、給食の放送で候補曲を聴いてもらって、全校投票して曲を決めよう！</p> <p>（全校生徒）</p> <p>○僕は旋律がきれいな「△△」を歌いたいな。</p> <p>○私は歌詞に共感できる「◇◇」を歌いたい！</p>	<p>■（事前の取組）全学年のパートリーダーが参加するオールパートリーダー会を開く。</p> <p>①全校合唱の曲目は伝統的に歌っている2曲「校歌・大地讃頌」と生徒が選んだ曲で構成することを伝え、選曲方法を考えてほしいと提示する。（給食の放送や投票等）</p> <p>②話し合いの進め方研修会をもち、話し合い攻略法をロールプレイで体験・習得できるようにする。</p> <p>■長年にわたって全校合唱を聴いてくださっている地域の方と連携し、地域の方の全校合唱への思いや願いに触れることができるようなビデオレターを作成しておく。</p> <p>■地域の方がビデオレターの中で語られていた「記憶に残っている」4年前の合唱を視聴できるようにDVDを準備しておく。</p>
	<p>（パートリーダー）</p> <p>○ビデオレターの中で「記憶に残っている」って話された4年前の合唱はどんな合唱だったんだろう。聴いてみたい！</p> <p>聴く人の記憶に残る合唱があることを知る。</p> <p>○男子の声が力強く、すごい迫力だなあ。○どうしたらこんな声になるんだろう。○いつから全校合唱は始まったんだろう。</p> <p>合唱の響きや全校合唱の歩みに興味をもち始める。</p> <p>○30年以上前から全校合唱の伝統が続いているんだ！ ○私たちが今までで一番いい合唱にして、地域の人を感動させたい！ ○でも、「記憶に残る合唱」ってどんな合唱なんだろう。</p> <p>より良い合唱にしたい気持ちになってくる。「記憶に残る合唱」に高めるために何が必要かを考えている。</p> <p>○みんなが本気でやるのが大切だよ。 ○一人一人が頑張ることだと思うよ。 ○みんながそろわないといけないんじゃないかな。 ○それって、合唱でどうやって表すの？</p> <p>「記憶に残る合唱」にするためには、みんなで協力して取り組むことや音楽表現の技能を高めることが必要だということに気が始める。</p>	<p>■30年以上前から続いている全校合唱の伝統とともに、当時（自分たちの親にあたる世代）の全校合唱レコードを聴取できるようにする。</p> <p>■全校合唱が始まった頃の音楽の先生が町内に在住であることも紹介する。</p> <p>■「記憶に残る合唱」にするために何が必要かを話し合ってみよう促す。音楽表現の技能面や意欲面など様々な意見を出せるようにする。</p>
<p>課題の設定（1）</p> <p>長年、世羅中の全校合唱を聴いてくださっている地域の方からのビデオレターを視聴する。</p> <p>4年前の合唱のビデオを視聴する。</p> <p>全校合唱が始まった当時のレコードを聴取する。</p> <p>「記憶に残る合唱」にするために何が必要かを考える。</p>	<p>「記憶に残る合唱」にするためには、どんな歌い方をしたらよいか考えて歌おう！</p>	<p>【特別活動】「記憶に残る合唱」にするため、クラスのスローガンを決める。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
情報の収集 (2)		
<p>「大地讃頌」の範唱CDを聴いて、楽曲の雰囲気や特徴をつかみ、パートで音取りをするなどして練習する。</p>	<p>○だんだんと音が大きくなっていて、壮大な感じのする曲だなあ。 ○最後の盛り上がりがすごいね。楽譜を見たら、fが3つもついているよ。 ○歌ってみたくなったね。音が取れるように練習しようよ。</p> <p>「大地讃頌」など全校合唱で歌う曲の全体像を大まかにつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ (事前の取組)「大地讃頌」以外に取り組む曲の投票結果を、パートリーダーから全体に発表させ、全校合唱に取り組み気持ちを高める。 ■ 「大地讃頌」の範唱CDを手がかりに、パートで音取りができるようパートリーダーと打ち合わせをしておく。 ■ 話し合いの司会をするパートリーダーに、事前の取組で行った話し合いの進め方研修会で体験・習得したことを発揮させる。
整理・分析 (1)		
<p>録音した自分たちの合唱と「大地讃頌」の範唱CDを聴き比べ話し合う。気付いたことを基に表現の工夫を深める。</p>	<p>○私たちの合唱は壮大さが出てないね。どうしてだろう？ ○各パートが順番に出てくるところは、だんだん音が加わっていくところだから、前のパートをよく聴いて、それよりも強くはつきりと歌っていったら壮大になりそうだよ。 ○fffのところは、他のところとあまり強さが変わらないよ。fffのところは、もっとパシッと声を出した方が壮大さも出ると思うよ。 ○気付きを生かして練習していこうよ！</p> <p>自分たちの合唱と範唱CDの表現の差に気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ (個人) 自分たちの合唱と範唱CDを聴き比べ、音楽表現の差に気付かせることで、より良い合唱にするためのポイントに気付かせる。 ■ (グループ) より良い合唱にするために気付いたことを交流し、本時、取り組みたい課題を出す。 ■ (全体) 本時、取り組む課題を一つに絞る。
【歌う(練習・録音)】→【聴く】→【話し合う】の繰り返し		
	<p>○全パートがそろって歌うところは、ソプラノが主旋律なのにアルトや男子の声の方がよく聴こえるよ。他のパートはもう少し音量を落として歌った方がいいと思ったよ。 ○fffの出し方だけではなく、ppのところをグッと弱くして、fffとの強弱の差ができるように歌ってみたらいいんじゃないかな。 ○だいぶ「記憶に残る合唱」に近づいてきたんじゃないかな。 ○昔、世羅中で音楽の先生をされていた地域の方に、僕たちの合唱を聴いてもらおうよ！</p> <p>自分たちの合唱と範唱CDの表現の差から、より良い合唱にするため効果的な方法を工夫している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ この整理・分析場面では、声部の役割と強弱に着目させる。顕著に表れる部分の録音・聴取・話し合いの繰り返し、表現の工夫による合唱の変化や学びの跡を即時捉えさせる。 ■ グループ活動の際、フォロワーのはたらきとして良いものがあれば紹介し、目指すリーダー像やフォロワー像を生徒がイメージできるようにする。 ■ 自分たちの合唱を誰にアドバイスしてもらいたいかを募る。
実行、課題の設定 (1)		
<p>地域の音楽の先生 (39 年前、世羅中学校で勤務されていた方) に自分たちの合唱を披露した後、アドバイスを聞く。</p> <p>地域の音楽の先生からのアドバイスを基に、新たな課題を考える。</p>	<p>【地域の音楽の先生からのアドバイス】 「記憶に残る合唱」にするには、もう少しです。皆さんは「大地讃頌」はどんな曲想で歌ったらよいと思っていますか。合唱では、歌詞の内容や作詞者、作曲者の思い、曲ができた背景などを歌でどのように表すかが大切です。この地域にも、この歌の歌詞が表すような大地がありますよ。それらも参考にどのような曲想で歌ったらよいかを考えてみてください。</p> <p>地域の音楽の先生のアドバイスを基に、「記憶に残る合唱」にするためにどのような情報が必要か考え、新たな課題を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域にお住まいの元音楽教諭と以下の2点を連携しておく。 ①学習の流れ (生徒が合唱を披露し、アドバイスを頂くこと) ②生徒に伝えて頂きたいこと (音楽表現で工夫している点への肯定的な評価・「大地讃頌」の歌詞の内容の深い理解が必要であること)
情報の収集 (1)		
<p>「大地讃頌」の歌詞の内容、作詞者、作曲者の曲に込めた思い、曲ができた背景などを調べたり、歌詞の内容と自分たちの地域の自然との関わりについて考えたりする。</p>	<p>○この曲はカンタータ「土の歌」という7楽章で構成された曲の中の最終曲だよ。 ○この曲の作詞者は広島出身なんだね。3楽章の歌詞には「ヒロシマ」が出てくるよ。 ○実際に原爆を経験している人だから、僕たちが思う平和への思いよりもっともっと強いものを感じるね。</p>	<p>【道徳の時間】ふるさと教材を扱った学習との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ カンタータ「土の歌」全楽章のCDと歌詞を準備する。 ■ 各楽章のポイントとなる部分をCDで鑑賞させる。

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
	<p>○原爆の恐ろしさや人間の愚かさ、怒りなどを表現した後に「大地讃頌」がくるんだね。</p> <p>○最終曲にくる「大地讃頌」の大地は、「原爆で焼け野原になってしまった大地だけど、そこからまた命が生まれる」という思いが込められているんじゃないかな。</p> <p>○命を生み出す大地だから「母なる大地」という歌詞なんだよ！</p> <p>○「母なる大地」というのは、僕たちでいうと、生まれ育ったこの地域なんじゃないかな。この地域はそこまで広い大地じゃないけど、歌詞の意味を知ると「大地に感謝する」ということに共感できるなあ。</p> <p>「大地讃頌」がカンタータ「土の歌」という楽曲の最終曲（7楽章）だということを知る。1～6楽章、それぞれがもつメッセージを理解することで、「大地讃頌」に込められた思いや、歌詞の内容と自分たちの地域の自然との関わりについて更に深く考え始める。</p>	<p>■（個人）1～6楽章までのポイントとなる部分を鑑賞した後、最終曲の7楽章「大地讃頌」を聴く。その際、「大地」や最後の「ああ」にはどのような思いが込められているか考えさせる。</p> <p>■（グループ）「大地」や「ああ」にどのような思いが込められているのか、個人で考えたことを交流し、イメージを膨らませる。</p> <p>■（全体）グループで出た意見を交流し、「大地」に対するクラスのイメージをつくらせる。</p> <p>■「大地讃頌」で歌われる大地の意味を歌詞や普段の生活と関係付けながら考えるよう促し、関係付けができた意見を肯定的に評価する。</p> <p>■感謝など、価値観に関わる内容もしっかり出させることで、「大地は生まれ育った自分たちの地域・人々」といった声を引き出す。</p>
整理・分析（1）		
【歌う（練習・録音）】→【聴く】→【話し合う】の繰り返し		
<p>調べたことや考えたことを出し合い、パート練習や全体練習をする。</p>	<p>○3～5楽章の戦争を表す部分の音楽は、暗くて重くて不安な感じの曲想になっているね。</p> <p>○その後に「大地讃頌」がくるのだから、平和や感謝が伝わるように、歌い始めは全ての声部が言葉の発音を意識して声量豊かに歌ったら、今より広がりが感じられるハーモニーがつかれるんじゃないかな。</p> <p>○最後の fff は、ただ強く歌うんじゃないくて、自然や大地への感謝と平和への強い思いを込めた、力強さがあると思うよ。</p> <p>「カンタータ「土の歌」の7楽章「大地讃頌」に込められたメッセージを届けるには、どうすればよいか考えながら歌い、表現を工夫している。」</p>	<p>■音楽で行っている整理・分析場面の学習パターン（録音、比較聴取、話し合い）を活用し、学習方法でつまずくことなく学習内容を深めることができるようにする。</p> <p>■大地への感謝や平和への祈りを込めて歌う「大地」が出てくるフレーズを①ppで厳かに歌う、②mpで神々しく歌う、③ffで壮大に歌うなど歌い試し、録音・聴取することで大地への深い感謝や祈りの表現に繋ぐ。</p>
実行		
<p>地域の方をお招きした文化発表会で、取り組んできた合唱を披露する。</p>	<p>○私にとっての大地である、家族や地域の方に感謝の気持ちが届くように歌いたいな。</p> <p>○涙を流しながら聴いてくれている人がいる。</p>	<p>■（事前の取組）自分たちの学びをどのように地域の方に届けることができるか交流する。</p>
まとめ、振り返り		
<p>合唱の学習を通して考えた合唱のよさや地域とのつながりについて感じたことを、地域の広報誌で発信する。</p>	<p>○大地への感謝や尊敬、平和への強い思いを表現したいからこそ、最後は f f f だと納得した。</p> <p>○歌い出しをはっきりさせて声を重ねていったら、歌詞の内容が表す大地への感謝や尊敬など、壮大で広がりのあるハーモニーができると思った。</p>	<p>■本題材を通して気付いた合唱の学習の価値や地域への感謝の思いを広報誌で発信できるよう、まとめさせる。</p>

【児童生徒の変容】

これまでの生徒たちの歌い方は、言葉一つ一つに対する自分の思いや意図を漠然と表現したものだったが、この題材を通して、思いや意図を表すために、声の音色、強弱、テクスチャなど、音楽を形づくっている要素をどのように変化させたらよいかを明確にした歌い方になった。変容のきっかけは、地域の方から届いたビデオレターである。生徒たちは自分たちの合唱に対する地域からの期待に応えようと表現の工夫を始めた。また、指導計画の中盤にゲストティーチャーからのアドバイスを受ける場の設定により、新たな課題を発見し、その解決に向けて更に意欲的に学習を進めていった。具体的には、楽曲に込められた作詞者・作曲者の思いや、その楽曲の背景を調べたり、どのような曲想で表現するか歌い試したりする過程で、「ff：とても強く」程度だったものが、「ff：壮大に、深く、心のコップから思いが溢れるように」など曲想への理解が深まった。声部が次々に重なる部分では、バランスの工夫と共に、声の特性を考えて男声は力強さ、女声はあたたかさが重なるなどと捉えていた。また、この楽曲と自分たちの地域とを関係付け、生徒にとって、この曲はふるさとの大地と人をも表す意味をもつものとして捉えるようになった。そして、ふるさとを誇る思いなどの資質・能力までもが一層高まった。